

事業所名

放課後等デイサービス ポムリエ サード

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

令和7

年

3 月

1 日

法人（事業所）理念		共に歩み、共に遊び、共に育む スタッフは利用児童と家族様の道標と成るべく、日々療育力を向上させる															
支援方針		家でも学校でもない第三の居場所として、スタッフ・利用児童が温かい感情を共有し安心して過ごせる環境を提供します 視覚的支援を行い、見てわかる会話・見てわかるルールを伝えます 行動観察やアセスメントを十分行い、利用児童本人が意思表示や自己決定ができ、将来的に自立できるよう支援します															
営業時間		9 時		30 分		から 18 時		0 分		まで		送迎実施の有無		あり		なし	
		支 援 内 容															
本人支援	健康・生活	・来所時に検温を行い、顔色や表情、活気の有無などで健康観察を行います ・来所時・おやつ前に手洗いや手指消毒を徹底し感染予防を行います ・週に1回は手作りおやつを提供や調理のレクリエーションを行い健康への関心を高め、病気の予防や安全への配慮が身につくよう支援します															
	運動・感覚	・週に1回以上、屋外での運動遊びや体育館を使用した遊びを取り入れ広い場所で体を動かします ・体幹トレーニング、サーキットトレーニング等で体のバランスを整え、指先トレーニングや季節の工作などを楽しむことで保有する感覚の統合的な活用を促します ・工作ではスライムや氷遊びなど、いろいろな材料に触れて温度や感触を楽しみ、音や匂いなどの感覚も取り入れられるよう支援します															
	認知・行動	・集団療育の中で自由遊びを通して行動観察を行い、療育に活かします ・視覚的支援グッズ（「株式会社おめめどう」の視覚的支援グッズ使用）を使用し、暗黙のルールを見える化して伝えます ・物や空間等の概念の形成を図り、認知や行動の手がかりとして活用できるよう事業所内の構造化、視覚的支援を行います															
	言語 コミュニケーション	・各種設定レクリエーションやお出かけイベント等、物や実際の体験と言語の意味を結び付け、体系的な言語の習得・自発的な発生を促します ・集団療育の中で、他者とのコミュニケーションに齟齬が生じた場合はスタッフが介入しつつ本人に分かる形（視覚的支援）でフィードバックし適切なコミュニケーションの方法を見つけられるよう支援します ・児童が自身の感情をありのまま表現できるよう関わります															
	人間関係 社会性	・集団で活動を行う中で、遊びを通して社会性や集団のルールを理解できるよう支援を行います ・異年齢の児童と関わることで自己理解を深められるよう支援を行います ・コミュニケーションメモ類（株式会社おめめどうグッズ）を使用して説明を行い、暗黙のルールを「見てわかる」よう伝えます															
家族支援		・定期的に家族様と連携を図り、相談支援を行います ・必要時ケース会議を開催し、学校や園、他の通所先等との連携を図ります								移行支援		・中高生の個別対応（学習、外出支援、個別課題） ・不登校児童の居場所づくり ・家庭・学校・他事業所との連携					
地域支援・地域連携		・自立支援協議会への参加 ・医療・福祉・教育の連携 ・親の会の活動サポート								職員の質の向上		・会社全体学習会（年4回） ・法定研修（虐待防止、感染症予防） ・ケーススタディ（事例検討）への取り組み ・ヒヤリハット分析、報告会					
主な行事等		・遠足（春・秋）・さーど祭り（夏祭り） ・お出かけ（公園、図書館、科学館など） ・さーどオリンピック（運動会） ・避難訓練（年2回実施） ・季節の工作 ・季節のクッキング ・運動遊び（体育館、屋外）															